

小学校 自閉症・情緒障害特別支援学級 国語科学習指導案

1 単元名 物語のおもしろさを考えて読み味わおう

2 単元について

(1) 児童の国語科における実態

項目	国語への関心・意欲・態度	能 力	言語についての知識・理解・技能
話すこと 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 興味がある内容や自分で体験したことなどについては、自分から話したり聞いたりしようとする。 相手に分かるように話そうとしたり、大事なことを落とさないように聞こうとしたりする態度はあまり見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事柄については興味をもって聞いたり、質問をすれば自分から話したりすることができる。 視覚優位のために耳からの情報が入らず、大事なことを聞きもらすことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手やその場の状況に応じて適切な音量や速さ、ていねいな言葉で話すことができる。 文と文の意味のつながりを意識しながら聞いたり話したりすることが難しい。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 板書を写したり、教科書を視写したりするのは、時間はかかるがていねいに書こうとする。 日記や作文などは、写真や絵などの手立てがあると自分から書こうとするが、書くように促されただけでは活動が滞ってしまうことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語の関係を意識しながら短い文章を書くことができる。 書こうとする題材に必要な事柄を集めたり、書く順序を考えたりして文章を書くことは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字の大きさや形を整えて書くことができ、下学年の漢字は約7割、当該学年の漢字は約半分くらい書くことができる。 会話文の書き方や改行の仕方を理解して文章を書くことは難しい。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 読書の時間を好み、課題が早く終わったときには進んで本を読もうとすることが多い。 興味が偏っていたり、絵ばかり追っていたりする傾向がみられ、目的に応じて読もうとする態度は見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書はすらすら音読できる。やさしい読み物であればだいたいの内容をとらえたり、説明文に書かれた事実を読み取ったりすることはできる。 物語文は理解しにくく、登場人物の心情や考え方情景などを想像しながら読むことは苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ひらがな、カタカナ、学年相応の漢字を読むことができる。 語句の意味や言葉の使い方を理解することが難しい。

(2) 単元観

教材「注文の多い料理店」は、中心人物である二人の紳士が「現実の世界」から「ふしぎな世界」へ行き、再び「現実の世界」に戻るという流れになっており、読み手を不思議な世界へと誘う効果がある。Aは長編の物語は内容を読み取ることに難しさを感じ、積極的に読もうとはしない。そこで、本教材で登場する紳士の人柄や様子を表す言葉の意味、表現等をおさえながら、紳士たちの言動を具体的にイメージすることで、人物の気持ちをとらえることができ、物語の内容を理解することができるようになるのではないかと考えた。また、二人の紳士が、山猫の罠にはまっていくスリル感を味わわせることで、物語文への興味・関心を高めたい。長編の物語の内容を読み取ることで、児童の読書生活が豊かに広がるのではないかと考え、本単元を設定した。

(3) 指導にあたって

物語文に苦手意識をもつAの実態に合わせ、取扱い時数を通常より多めにとって丁寧に指導に当たることにした。1学期の物語教材で、「設定」「展開」「山場」「結末」の4つの構成をとらえる学習を経験したが、内容を読み取ることに難しさが見られた。そこで、6つの場面にして少ない段落での構成にすることで、読み取りが深まるのではないかと考えた。授業や家庭学習において音読を繰り返すことでも、あらすじや言葉の意味などの理解を高めることができるようにした。そして、文中の難しい語句や表現されている意味についてはさらに解説をしたり、イメージができるように視覚教材や動作化を取り入れて理解を促したりしたい。Aは書く活動に時間がかかるので、ワークシートは、書き込む部分を調整し、できるだけ児童の苦手意識をもたせないように配慮した。また、宮沢賢治作品にふれる時間を設け、物語の楽しさが分かり、読書への関心がもてるようにしたい。

3 児童の実態と個別目標

〈単元における実態〉

○やさしい物語文のだいたいの内容をとらえたり、説明文に書かれた事実を読み取ったりすることができる。

○文と文の意味のつながりを意識しながら聞いたり、話したりすることが難しい。

○長編の物語では、登場人物の相互関係や場面の描写を読み取ることが難しい。

〈単元における目標〉

単元の目標 (当該学年の目標・当該学年の目標を一部変更・下学年教材)

児童の実態に応じた目標を設定する。

特別支援学級における単元の目標	通常の学級における単元の目標
○ 物語の楽しさがわかり、宮沢賢治の他の童話を読もうとする。 (国語への関心・意欲・態度)	○ 物語に興味をもって、おもしろさの工夫を探しながら読もうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
○ 登場人物の言動を具体的にイメージし、その時の気持ちを読み取ることができる。 (読むこと)	○ 構成や文章表現の工夫などから、物語のおもしろさを読み取ることができる。 (読むこと)
○ 視覚的情材や動作化を通して、文中の語句や表現について、意味を理解することができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	○ 独特な言葉の使い方や、表現上の工夫をとらえることができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 指導計画と評価 (13時間扱い) 児童の実態に合わせ学習時間と学習内容を変更する。

第1次 読んでみよう・調べてみよう…………… 2時間

第2次 あらすじをつかもう…………… 2時間

第3次 場面ごとに読み取ろう…………… 7時間

第4次 宮沢賢治の作品を読んでみよう…………… 2時間

次	特別支援学級での単元計画 (13時間扱い)	通常の学級で実施する際の単元計画 (9時間扱い)
1	1 音読の練習をする。 2 むずかしい言葉の意味を確かめる。	② 1 物語を読んで初発の感想を交流する。 ①
2	3 登場人物や背景を確かめながら、簡単な感想をもつ。 4 「現実の世界」と「ふしぎな世界」に当たる部分を確かめ、だいたいのあらすじをつかむ。	② 2 「設定」「展開」「山場」「結末」の四つの部分に分けて物語の構成をとらえる。 ② 3 「現実の世界」と「ふしぎな世界」に当たる部分を確かめる。
3	5 第1場面を読んで、山奥で道に迷う二人の紳士の様子を読み取る。 6 第2場面を読んで、西洋料理店を見つけて喜ぶ二人の様子を読み取る。 7・8 第3場面を読んで、戸に書かれた注文に応える二人の様子や気持ちを読み取る。 9 第4場面を読んで、料理店から逃げ出そうとする二人の様子や気持ちを読み取る。(本時) 10 第5場面を読んで、泣くこと以外何もできない二人の様子や気持ちを読み取る。 11 第6場面を読んで、助かるが紙くずのようになった顔が元に戻らない二人の様子や気持ちを読み取る。	⑦ 4 戸に書かれている言葉や二人の紳士の心情について読み取る。 5 物語全体を通して二人の紳士の変化を読み取る。 6 表現の工夫やおもしろさをとらえる。 ③
4	12・13 宮沢賢治の他の作品を読む。	② 7 表現の工夫やおもしろさを解説ノートにまとめる計画を立てる。 8 解説ノートを書く。 ③ 9 解説ノートを交換して読み合い、感想を交流する。

5 本時の指導

(1) 実態及び個別目標

	実　　態	目　　標
A	○物語文は理解しにくく、登場人物の心情や考え方、情景などを想像することは苦手である。	○二人の紳士の様子や会話文から、逃げ出したい気持ちを想像し、吹き出しに書くことができる。

(2) 準備・資料

挿絵・言葉のカード、ワークシート、スリット、表情カード、振り返りカード

(3) 展開

時間	学習内容・活動	教師の指導・支援と評価 (◎評価)
7	1 本時の流れを確認する。	
10	2 第3場面（前時）のあらすじを振り返る。 3 本時の学習課題をつかむ。 4 の場面の二人のしんしの気持ちを考えて、ふき出しに書いてみよう。 (1) 第4場面を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習予定表を活用することで、見通しをもって授業に取り組むことができるようとする。 ・挿絵や戸に書かれている言葉のカードを話の順に並び替えるよう促すことで、簡単に前時のあらすじをおさえることができるようにする。 ・声に出して発表するように促すことで、本時の学習課題を意識することができるようになる。 ・家庭学習等で事前に音読の練習を繰り返し行っていることを賞賛し、物語の内容をイメージして読むことができるように促す言葉かけをする。 ・「これだけ」「向こう」「こっち」などが、何を指しているかを確かめる言葉かけをすることで、二人の様子を表す言葉の意味を理解することができるようになる。 ・Aの活動が止まってしまったときには、戸のうら側に書かれた言葉の意味を確認することで、二人の会話に注目することができるようする。 ・教科書のどこに書いてあるかを、教師と一緒に確認することで、書いてある部分が分かり、ワークシートに書くができるようになる。 ・書字能力に応じたプリントを活用することで、「書くこと」への抵抗を減らして取り組むができるようになる。 ・会話文に注目するように促す言葉かけをすることで、怖がっている様子に気付くことができるようになる。 ・同じ文が表れる部分を確認することで、一人一人に二度書いていることに気付くことができるようになる。 ・視写する場所以外をスリットを入れた厚紙で隠し、集中して書けるようする。 ・視点が定まらないので教科書の視写する場所を明示する。 ・紳士たちの気持ちに気付くことが難しいときは、表情カードを活用し、気持ちをイメージしやすいようする。 ・カードを使って視覚的に確認ができるようになる。
25	4 二人の紳士の様子や気持ちを読み取る。 (1) 二人が、「おかしい」と気づいたところがわかる文章に線を引く。 ・今度という今度は、二人ともぎょっとして、～見合せました。 ・「どうもおかしいぜ。」 ・「ぼくもおかしいと思う。」 (2) 「注文の多い料理店」とは本当はどんな店なのか、教科書に線を引き、ワークシートに書く。 ・西洋料理を来た人に食べさせてのではなくて、来た人を西洋料理にして食べてしまう店 (3) 「注文の多い料理店」がどんな店なのかわかったときの二人の様子に線を引き、ワークシートに書く。 ・がたがたがたがたふるえだして、もうものが言えませんでした。 (4) ふるえているときの紳士たちの気持ちを吹き出しに書く。 ・おそろしい。　・だれか助けて。 ・早く逃げたい。	<p>◎紳士たちの恐怖で逃げ出したい気持ちを想像することができている。〔読〕 (ワークシート)</p>
2	5 本時の学習を振り返る。 振り返りカードに自分のがんばりを記録する。	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードは、チェックでも評価できる簡単なものにする。 ・1時間のがんばりを賞賛し、次の意欲につながるようにする。
1	6 次時の学習内容を知る。	